

子離れと巣立ち

(PTA会報 第131号より)

このたび卒業を迎える生徒の保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。また、これまで本校発展のために多大なご協力をたまわりましたことに、深く感謝申し上げます。

例年のことではありますが、今年の卒業生も、その八割以上が親元を離れることとなります。たとえ親元に残ったとしても、親に対する依存度は確実に小さくなりますし、また、そうあらねばならないと考えます。その意味で高校3年間は、親にとっての子離れの準備期間と言ってもいいのかもしれないかもしれません。

卒業生の保護者の皆様も、スムーズな子離れを実現するために、十分な親子間の話し合いの機会を持たれたことと思います。激しく変化する社会情勢を考慮しながら、「なぜ進学するのか。なぜ就職するのか。」という進路にかかわる根本的な意義について問いかけたり、親として経済的な支援がどこまでできる・できないということを伝えたりする中で、子どもは自分の人生の将来設計について、真剣に向き合う姿勢を持つようになったのではないのでしょうか。

野生動物を紹介するテレビ番組等で、巣立ちのシーンを見ることがあります。動物の巣立ちは、まさに生きることに直結しており、その期間は比較的短く、ドライな印象があります。しかし、時には厳しく、時には優しく、巣立ちを促す親の姿は、いつ見ても感動します。

上手な巣立ちには、信頼関係が欠かせないと考えます。初めての世界に子どもが飛び込むとき、親が子どもに与える信頼感や安心感が、子どもにどれだけ勇気と希望を与えることでしょうか。その信頼関係は、子離れの準備期間に形成されます。話し合いの末に子どもが行った選択を尊重してあげるとき、子どもは安心して十二分に力を発揮します。

子どもが巣立つときの安心感は、子どもが何かに挫けたとき、巣に戻る安心感にもなります。ほとんどの動物の巣立ちは、一回限りかもしれませんが、人間の場合は、二度・三度巣立つこともよくあることです。

本荘高校を巣立つ卒業生の前途が幸多からんことを祈るとともに、在校生の巣立ちの準備も順調であるようにと願っております。

